

健生病院内科病棟に心不全で入院し言語聴覚士による嚥下評価・訓練を受けた患者さんへ

この研究は、弘前医療福祉大学大学院修士課程の一環として行われています。対象となる患者さんのデータを用いて行いますが、個人のお名前や個人を特定できる情報が公表されることは一切ありません。

ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

研究課題名	高齢心不全患者に対する嚥下リハビリテーションの影響と嚥下能力低下および回復に関連する要因についての検討
研究責任者 (共同研究者)	小山内奈津美 所属：健生病院リハビリテーション科, 弘前医療福祉大学大学院, 地域健康支援学研究科
研究目的と意義	当院では、心不全で入院した患者に対して言語聴覚士（ST）が嚥下機能の評価を行い、評価結果に応じた嚥下リハビリテーションを実施しております。心不全では、高齢者の特性に起因し入院後に嚥下リハビリテーションが必要となることが報告され、当院においても入院患者の高齢化に伴い入院後に嚥下障害を発症する事例が少なくありません。本研究の目的は、併存疾患を有する高齢心不全患者の嚥下能力低下および回復に関連する要因と嚥下リハビリテーションの効果について検討することです。嚥下能力の低下および回復に関連する要因を知ることで、リスク因子の特定や治療や介入ターゲットの設定、治療計画に役立てることができる。また、高齢心不全患者における嚥下能力の推移を知ることで、リハビリテーションや治療の効果についての指標を得ることです。
調査対象となる方 (該当期間)	2022年4月1日から2024年3月31日までの期間に、健生病院内科病棟に心不全で入院し、STによる嚥下評価・嚥下訓練を実施した65歳以上の患者。
研究方法 (使用する情報)	電子カルテに記載のある診療記録と検査データを利用します。 (基礎情報：性別・年齢), 在院日数, 心不全の種類(慢性/急性, 入院時の左室駆出率LVEF)、重症度(NYHA分類, BNP), 脳血管疾患の既往, 病前・ST初回評価時・退院時の摂食嚥下状況レベル, 入院時の血清アルブミン値(A1b)とBMI, 入院時の機能的自立度評価の点数, 入院からST介入までの日数、入院から離床開始までの日数
研究期間	倫理委員会承認日（2025年 6月 13日）より 1 年間
個人情報の取り扱い	個人情報は厳正に管理し利用する情報から氏名や住所などの患者さんを直接特定できる情報（イニシャル、生年月日、当院 ID など）は削除します。また、研究成果は論文作成及び学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。
お問い合わせ先	この研究に関して新たに患者さんにしていただくことや負担は特にありません。本研究への参加を辞退される場合は、いつでもご遠慮なく研究責任者までご連絡ください。参加を辞退されても患者さんが診療の上で不利な扱いをうけることはありません。 お問い合わせ先 1) 津軽保健生活協同組合 健生病院 リハビリテーション科 小山内奈津美 電話0172-55-7717